平成 28 年度　春期　システム監査技術者試験　解答例

午後 I 試験

問 1

出題趣旨
組織体の活動や社会インフラが IT に大きく依存している現在では，IT を使った犯罪や事故が後を絶たず，情報セキュリティの脅威が多様化・複雑化している。組織体は，脆弱性情報の公表，ウイルス感染被害や情報漏えい事故の発生，内部不正の発覚などの情報セキュリティインシデントに対し，トップダウンでの対策実施，脆弱性や事故への迅速な対応のために，組織全体としての体制強化が求められている。 本問では，情報セキュリティインシデントへの迅速で適切な対応を目的として設置された組織内 CSIRT の運用において発生するリスクの知識，リスクの程度に応じたコントロールを識別する能力，及びコントロールの有効性を検証するために必要な監査手続を選択する能力を問う。

設問		解答例・解答の要点	備考
設問 1		新技術を利用した攻撃などの可能性があるイベントを検知できない。	
設問 2		・詳細な確認方法の記述がない確認事項について，情シ兼任社員に確認方法を質問した。 ・情シ兼任社員が行った，詳細な確認方法の記述がない確認事項のトリアージ記録を査閲した。	
設問 3		システム変更時にその内容を B 社 CSIRT に報告させ，影響を把握する仕組みの構築	
設問 4	(1)	外部で発生したインシデントへの対応を適切に行えず，B 社グループが同様の被害を受けること	
	(2)	グループ外での対応が遅れ，B 社グループ内で発生したインシデントと同様の被害が外部に拡大すること	

問 2

出題趣旨
システムの移行判定では，ユーザ受入テストの実施，コンティンジェンシープランの策定，システム停止・変更に関する顧客向け告知など，システム部門だけでなく，利用部門，システムオーナなどがそれぞれ適切な役割を果たしていることを確認する必要がある。システム部門の視点だけで，移行判定基準が策定されたり，移行判定が行われたりすると，移行後に利用部門，顧客などに対して影響を及ぼすトラブルが生じるおそれがあるからである。 本問では，移行判定のプロセスに沿って，判定に係る問題点を識別して監査目的を設定する能力，移行判定の適切性を確かめるための具体的な監査手続を策定する応用能力を問う。

設問		解答例・解答の要点	備考
設問 1		両社システム部門担当者は，顧客への影響告知の必要性について，両社利用部門担当者に確認したか	
設問 2	① ②	・ST 中間報告書 ・システム統合委員会議事録	
設問 3	a	更新されて，中間移行判定で付けられた条件を満たしたか確認する。	
	b	最終移行判定手続が適切に策定されていることも確認する。	
設問 4		CP と訓練結果報告書を照合して，訓練結果を踏まえて CP が必要に応じて見直されたか確認する。	

問３

出題趣旨
大規模なシステム開発を行う場合に，システム部門やオーナ部門の体制が十分でないことがある。そのような場合に，プロジェクト管理業務を含め，開発業務を複数のベンダに委託することがある。とりわけ，プロジェクト管理業務については，それを委託したからといって，委託先間の調整，重要な計画変更，管理上の意思決定まで外部に依存してよいということではない。 本問では，発注者側の体制が十分でない場合の大規模システム開発プロジェクトを監査するに当たり，リスクと必要なコントロールを把握し，適切な監査要点及び監査手続を設定する能力を問う。

設問	解答例・解答の要点	備考
設問１	P 社にインタビューし，T 課長が PM の役割を果たしていることを確認する。	
設問２	複数の委託先間にまたがって調整すべき事項が発生すること	
設問３	A 法人での意思決定がタイムリに行われず，工程の遅延や手戻りが発生するリスクがある。	
設問４	プロジェクトの進行に合わせて，T 課長が P 社の管理業務の内容を随時見直していること	
設問５	要件定義を担当した委託先とは異なる委託先に開発を委託する場合の引継ぎ期間が考慮されているか	